

地方都市の公共交通不便地域における交通サービスへの住民意向に関する研究

藤岡市都市建設部都市施設課	正会員	○松田 拓也
前橋工科大学		湯沢 昭
前橋工科大学 社会環境工学科	正会員	森田 哲夫

1. はじめに

今後、ますます高齢化が進み、高齢者ドライバーによる運転事故の増加が深刻となることが予想される。その一方で、地方都市では公共交通不便地域が問題となり、今後より一層交通サービスが低下していくことが懸念される。本研究では、地方都市の公共交通不便地域における交通サービスについて住民の意向を調査し、今後の公共交通サービスのあり方を考察することを目的とする。

2. 対象地域の交通サービス

(1) 対象地域の設定

本研究の対象地は、群馬県藤岡市を対象地とする。群馬県での自動車利用率は高く、「平成 27,28 年度群馬県パーソントリップ調査」において、目的種類別代表交通手段構成は、自動車利用率は群馬県内で 8 割を超えている。藤岡市でも利用率は 8 割を超え、自家用車に依存した交通環境が見受けられる。

(2) 使用データ・分析方法

本研究は、主に住民アンケート調査、及び住民ヒアリング調査の結果を使用する。調査対象者は概ね 75 歳以上の高齢者とし、アンケート調査の概要は表 1 及び表 2 のとおりである。また、藤岡市内での公共交通不便地域の位置は図 1 のとおりである。市内循環線、藤岡一上平線、三ツ木ー高山線のバス利用状況を表 3 に整理した。

表1 住民アンケート調査回収数

地区名	調査日	回収数	地区名	調査日	回収数
高山	令和元年8月21日	5	神流	令和元年10月30日	49
日野	令和元年8月21日	27	小野	令和元年10月31日	31
美土里	令和元年10月24日	40	合計		152

表2 住民アンケート調査内容

質問1	性別	質問5	買物・通院の回数と交通手段
	住まい（地区）	質問6	車の運転の意向
質問2	同居家族（年齢別）	質問7	バスの利用状況
質問3	健康状態		利用しない理由
質問4	買物・通院の交通手段に困っているか	質問8	バスの必要性

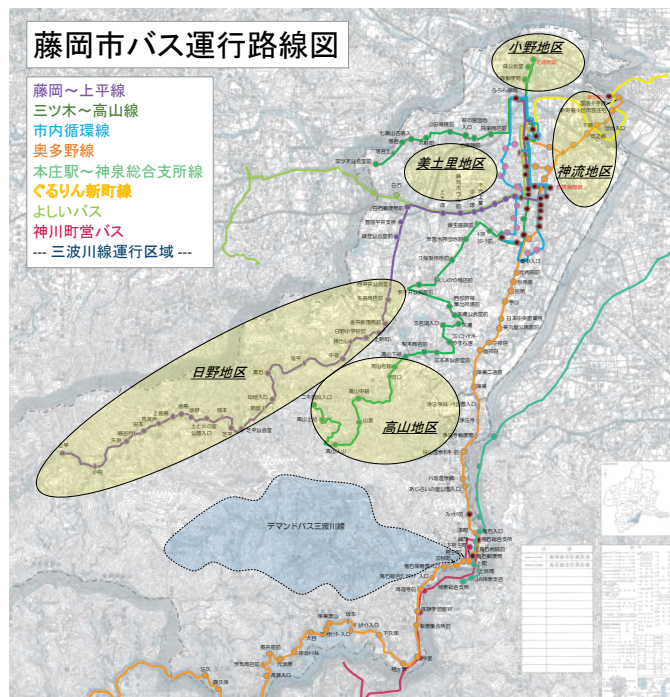


图 1 公共交通不便地域位置图

表3 バス利用状況

路線名	運行距離	便数		運賃	利用人数（月）	利用人数（日）
市内循環線	1周16.4km	左回り	9	100円	1,228	39.6
		右回り	9		1,167	37.6
藤岡～上平線	1往復54.5km	往路	5	100～500円	237	7.6
		復路	5		288	9.3
三ツ木～高山線	1往復66.3km	往路	3	100～500円	164	5.3
		復路	3		206	6.6

平成30年10月1日～10月31日調査

3. 住民意向に関する調査結果と分析

(1) 世帯の状況及び健康状態

本調査では、調査者数 152 名に対し、65 歳以上の高齢者のみの世帯が 63.2%であった。

現在の健康状態に関しては、「健康には全く問題はなく、自分一人で外出できる」という回答が 44.1%、「多少健康は心配であるが、一人で外出できる」が 50.0%であり、現段階では調査者の多くは介助が不要で一人で外出を行えることがわかった。

(2) 外出状況

外出の際に困っているかに関しては、「いつも困っている」、「時々困っている」の回答が1割であり、外出困難者が一定数存在する。

キーワード 公共交通、高齢者、アンケート調査、パーソントリップ調査

連絡先 〒371-0816 群馬県前橋市上佐鳥町 460-1 前橋工科大学 地域・交通計画研究室 TEL. 027-265-7362 E-mail: tmorita@maebashi-it.ac.jp

外出頻度は、買物については週に2～3回程度以上という回答が6割であり、通院については月に1回程度という回答が最も多く4割を超えていた。また、その際の交通手段は、買物と通院のどちらも約7割が自分で車を運転するという回答だった。

(3) 運転状況

自分で車を運転する人を対象にした調査項目の回答が図2のとおりである。「運転にはあまり自信がない」、「運転をしている時に危ないと思うこともある」と回答した人を合わせると6割を超えるため、高齢者は運転に自信はないが生活のために運転をしていることが見受けられる。

(4) バスの必要性

バスの必要性について調査した結果は図3のとおりである。「今は困らないが将来はバスが必要になると思う」、「バスは地域の交通手段として必要だと思う」がともに6割を超える回答があった。このことから、住民にとってバス交通は生活をするうえで必要な交通手段であるという意向がわかる。

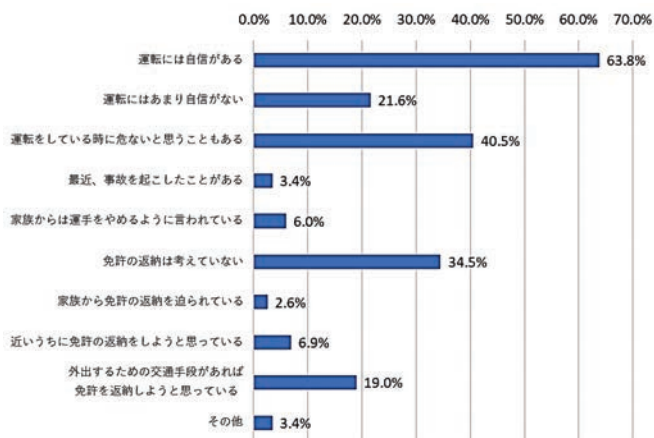


図2 運転状況（複数回答）

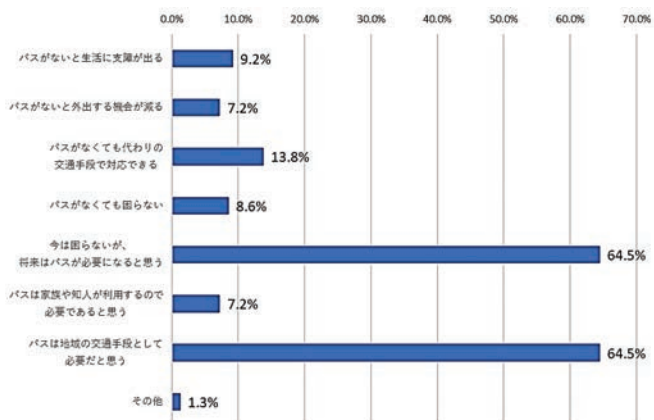


図3 バスの必要性（2項目選択）

(5) ヒアリング調査結果

本調査では、アンケート調査のほか、ヒアリング調査により直接住民からの意見聞き取り調査を行った。主な意見として、「現在は自分で車を運転できるため、生活に困っていないが、運転ができなくなった時が不安なのでバス運行は必要」や「バスを利用できれば免許の返納が行える」といった意見があった。

4. 今後の公共交通サービスに関する考察

本研究により、住民アンケート調査及びヒアリング調査から、現在は自動車の運転ができるが、将来運転ができなくなった際に生活が不安だと思いう意見が見受けられた。ただし、自動車の運転ができなくなるということは、同時にバス停まで歩くことが困難なことが予想される。

今後の公共交通サービスとして、現在運行している市内循環バスを活かし、自宅から既存のバス停、また既存のバス停から自宅までのデマンド型バスの運行が考えられる。本研究の中で、小野地区及び神流地区では藤岡総合病院、美土里地区では藤岡市役所をそれぞれ目的地としたデマンド型バスの運行を今後検討していきたい（図4）。また、高山地区では、世界遺産である高山社跡までは通常運行とし、その先については利用者が少ないことから、需要のある時にだけ運行するデマンド型とすることが考えられる。

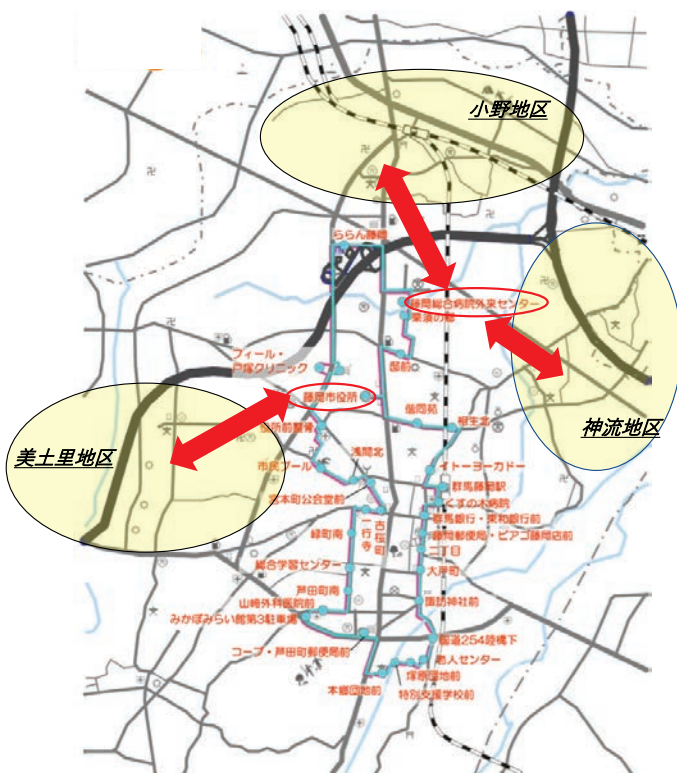


図4 各地区から市内循環線バスまでデマンド型案